

# 音楽療法士

## 工藤 麻子さん



### —音楽療法士になったきっかけについて教えてください—

音楽教室の講師をして間もなくの頃、好きなアーティストの記事の中に音楽療法という言葉が出てきました。これから医者として協力して音楽療法をやってみようと思う、という記事でした。

「音楽療法って何だろう」「誰に聞いたらいいのだろう」と調べたんです。翌年から札幌で勉強会がある事を知り、行ってみたのが始まりです。「音楽療法って何だろう」と思ったところから始めて今も何だろうと思って続けています。

その勉強会はアメリカで学んで帰ってきた先生が音楽療法を広めようとして始めたものです。2か月に1回くらいの頻度でみんなで滝野に泊まり込み、ロールプレイをしたりなどユニークな活動をしていました。

### —音楽療法士の資格とはどういうものですか—

私は日本音楽療法学会認定の音楽療法士ですが、日本ではまだ国家資格になっていません。

私が取得した頃は、講義を受けて地道にポイントを重ね1000ポイント以上で受験申請できました。そのほか臨床経験が3年以上必要で、学会で発表するなど幅広い活動が求められていました。

現在は資格試験受験認定校で体系的に学ぶか、学会が主催する必修講習会を経て資格を得る二通りの方法があります。

### —音楽療法士さんはどんなところで活動されているんですか—

音楽療法士という職業はまだまだ世間には広く認知されていません。高齢者・精神科・児童・ホスピスなど活動の場は広いですが、北海道で正職員になっている人は数える程度です。当院のように非常勤の職員になることもあまりないのが実情です。

### —当院でされている活動について教えてください—

週に一度水曜日に出勤し、医療スタッフのカンファレンスに同席しています。14時からボランティアせらさんが開くお茶会に併せて音楽の時間があります。ピアノを弾き、一緒に歌ったりリクエストに応じたり、ときに患者さんに楽器を持ってもらって一緒に演奏を楽しんだりしています。フロアに来られなかった患者さんのお部屋に伺って、個別に音楽を演奏しています。

集団の中でお茶と音楽があって、そこに患者さんとせらさんがいて会話がある。人によって求めるものが違うと思いますが、それぞれのスタイルで楽しんでもらえたらと思っています。患者さんがポツンと一人にならないように、ボランティアさんもそばにいてくれるので助かっています。

患者さんは音楽ののって来て体を動かしたり一緒に歌ってくれたり、目をつぶって聴き入る方も…ときには涙される患者さんもいます。

### —個別のお部屋ではどんな風になっていますか—

カンファレンスで看護師さんから「今日はこの患者さんのところへ入ってください」と頼まれることがあります。事前に看護師さんが患者さんに「音楽の出前がありますよ。好きな曲を弾いてくれますよ」とお声がけしてくれて、要望のあった人のところに行くようになっていきます。

「今日はあの方お茶会に見えてないからどうなされたのかな」と思って看護師さんに聞いてからお部屋を訪ねることもあります。

リクエスト曲を事前にいただけると楽譜を準備してきちんと練習して行くことができます。あるいは「誰が好き」とアーティスト名を言ってくださると助かりますね。患者さんの歌に伴奏をつけたり、私が弾く曲を聴いていただいたり。

### —忘れられないエピソードを教えてください—

何年も前の話ですが「私はここでゆっくり過ごさせてもらいたいと思ってここにきました」という方がいました。「この人たちはみんな優しく、自由に、好きなように時間を過ごさせてもらっています。まるで竜宮城のような場所だと思う。音楽も楽しくてすごいね」と言ってくださって。

『おくりびと』という映画の話をして「あれは亡くなった人を送る人の話だけれど、ここは生きている人を自由にさせてくれて優しくしてくれて。この人たちこそ、おくりびとだと思います」と仰いました。

同感でしたし、そのときに、私も竜宮城の一員になれるように頑張ろうと思い、現在にいたっています。

### —これは難しいと思ったことはありますか—

知らない曲をリクエストされ、楽譜もなく弾けないとなると、すみませんという気持ちになります。

先日も楽譜がなかったのですが、ネット検索で出てきて、それをプリントアウトするのに、クラークさんや研修医と一緒にああでもない、こうでもないとわらわらしていた所に院長が通りかかって「どれ」と言ってパパッとプリントアウトしてくれました。そのチームワークがすごい。患者さん中心で、今聴きたいと思ったときに何とかしようという意気込みが感じられます。

その後すぐ患者さんに曲をお届けできました。私、カンファレンスに入れていただくようになって、実は「愛のカンファレンス」と自分の中で呼んでいます(笑)

例えばその場にはいない患者さんやご家族の気持ちなどを推察して熱くディスカッションしたり、目に見えないような事を奥の奥まで、患者さんやご家族にとって何がベストなのかを常に考えていて毎回感動しています。

### —これからの夢、やりたいことはどんなことですか—

病院全体の中で動きたいと思っています。今はホスピスだけですが、一般病棟やリハビリでも色々できることがあると思っています。外来ホールとかでも活動できるかなと。

季節のお花と音楽とか、芸術と音楽とかコラボできるんじゃないかなとも思っています。たとえば夏には「水まんじゅうを食べましょう、音楽と共に」というイベントを立ち上げたとしたら、おやつの説明を聞いて食べて、それに合うような季節の音楽を楽しむ。食や芸術と音楽の融合ができるんじゃないかと思っています。

リフレクソロジーを受けていただきながら聴く音楽とか。気持ち良くて寝ちゃうかもしれませんね。

長期療養されている方や認知症の患者さんにも何かお役に立てたらと思っています。そんなことを心の隅で大々的に思っています(笑)